



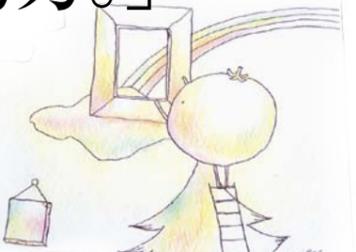
◀▶大森さんからの誘いで参加し始めた、地域科学部1年の谷野友香さん(右)と、応用生物科学部4年の黒田沙織さん(左)。稲刈りなどを一緒に楽しみながら子どもたちをサポートする。



# 「人間教育を大事にする、教育学部での学びが活動の原動力。」

芸術を通して社会教育活動に取り組む大森美瑠さん。  
大学での実践的な学びを通して、人間教育の大切さを実感し、子どもたちの豊かな感性を育てていける“場”を作りたいと意欲を燃やす。大森さんが描く将来の夢は教師、絵本作家、アーティストと無限に広がる。

絵：大森美瑠



## 芸術を通して人の心が繋がることを、アートフォーラムの活動で実感。

大学の实習で学んだことが、血となり肉となつていく。私は子どもの頃から絵本作家になりたいという夢があつて教育学部美術教育講座に進みました。教育学部のすばらしいところは、「人間教育」をとても大事にしていることです。ただ教科の内容を詰め込むのではなく、子どもたちに寄り添って、子どもたちと同じ目線に立つて、共に成長していくことや、人と社会の繋がりを大事にした教育を学ぶことができます。ですから次第にただ絵がうまく描けるようになる教育は違うかなという思いが生まれていきました。さらに1年生から4年生まで、実践の場をたくさん設けていただき、学校現場などで先生方のお話を聞く機会をいただけただことは、血となり肉となつていきます。特に教育実習校の先生方の熱意をすごく感じました。睡眠時間を削って私たち学生に向き合つて指導してくださつて。その真摯な姿勢から多くのことを学びましたね。そんな経緯もあり、4年生の頃から美術教育に気持ちが向かい始め、大学院では社会教育をもっと学びたいと思うようになりました。また、卒業論文のためにワークショップの研究を続けるうちに実際に

この活動を知ったのは、彫刻家として作品の展示もされている河西准教授が声をかけてくださったことからです。参加して2年目の今年初めて企画を担当。谷汲の自然の中で「森のこどもレストラン」を開店するワークショップを考案しました。農作業や自然体験、ものづくりを通して自然を慈しむ心を育み、生きることとアートは繋がっているんだよ、ということを実験してもらいたい、という想いを込めました。子どもたちも楽しんで田植えや野菜の種蒔きをし、夢中になって食器やレストランの看板を作ってくれて、その様子を目にできてうれしかったです。思うように進まないこともありましたが、スタッフの方々に教えてもらいながら多くのことを学ぶことができました。

大学院では教育社会学や学校経営などの勉強と共に、絵画や彫塑などの専門教科も学んでいます。一人一人の感性を豊かに伸ばしていただける美術教育がしたいと、改めて強く思っています。



岐阜アートフォーラム 企画運営スタッフ  
**大森 美瑠**さん  
大学院教育学研究科  
総合教科教育専攻  
芸術身体表現コース1年

## 岐阜アートフォーラム

地域社会の中心的存在の寺院を現代に活用することを目的に、平成18年にスタートした取り組み。岐阜市内の寺院の境内を芸術家に開放し、コンサートや美術展覧会、親子向けのワークショップを行っている。平成25年には大森さんの立案により、岐阜県西部の掛斐川町谷汲(いびがわちょうたにぐみ)を拠点にした「谷汲プロジェクト」が加わり、農業・アート・自然体験を通して、人と自然とアートが繋がるワークショップを展開。実行委員でもある教育学部美術教育講座 河西准教授は「地域に根ざしたこのイベントは学生が子どもと関わる絶好の機会。フレンドシップ事業として岐阜大学が後援しています。参加する学生も教育学部だけでなく、応用生物科学部や地域科学部などにも広がっています」と話す。



▶▶「森のこどもレストラン」の看板に絵を描く作業では、河西准教授(上・右)や大森さんが子どもたちにアドバイス。看板用の板(右上)は河西准教授の彫塑室で丸太を輪切りにしたもの。